

# 第1分科会③

## 高齢者ケアにおける自己決定の重要性と課題

自己決定  
私の人生史  
人材育成

介護支援専門員自身の人生史でケアプラン作成にとりくんで

鹿児島県・<sup>あいら</sup>始良市

居宅介護支援事業所 介護相談所コスモス

介護支援専門員：西村 <sup>にしむら</sup> まどか

共同研究者：柳川 ケイ子 矢元 カヤ子

共同研究者：花園 美智子 柳川 育美

Fax 0995-65-4050

### 施設またはサービスの概要

「高齢者が歳をとっても自分らしく、遠慮をしないで堂々と生きていくためのケア」めざし、居宅介護支援事業所にて認知症ケア・ターミナルケアも視野に入れた介護支援を行っている。認知症対応型グループホーム、デイサービスを併設。

#### <取り組んだ課題>

人生経験も浅く、老いや死を自分のこととして意識したこともない私が、介護支援専門員として他人の人生やルーツをアセスメントしている時、自己満足に終わっているのではないだろうかと危惧している。高齢者は人生の終末期という大切な時間を生きている。自分が老いた時、死に行く時、認知症になった時に、どのようなケアを受けたいかを決めることが「自己決定」であり、その人の人生史が深く関わっていると考えられる。しかし、介護支援専門員として「高齢者の想い(自己決定)を本当の意味で尊重できているか」と疑問を持つこともあった。その理由として、

- ・ 戦後を苦勞して生きぬいた高齢者は、望みや願いをあえて口にしない方が多く、また元気なうちは、未だの老いや死を考えることが難しい
- ・ 認知症の進行などにより、本人の希望を聞き取っていくことが難しくなっていた
- ・ ケアプラン策定の際、家族の事情や意向、状況等が先行して、本人の意向が叶えにくかった
- ・ 介護支援専門員が、老いや死を話題に本人に直接問かけると不安を感じている場面もあった

などが考えられる。しかし、ケアマネジメント実践は利用者本位をめざし、高齢者の自己決定を支えねばならない。そこで、利用者に価値あるケアを提供するために、自己決定を支援する介護支援専門員の資質育成についての取り組みを行った。

#### <具体的な取り組み>

- ・ グループを組み、スタッフをモデルに「自分で決める老後・ターミナル」をテーマに実際に情報収集を行う。モデルの人生史の振り返り、老後の暮らしのため必要な情報項目を抽出する。
- ・ グループ構成：30～65歳、介護支援専門員、介護スタッフ、看護師含む5名。モデル：65歳介護支援専門員（発表の了解済、倫理的配慮得た）
- ・ 高齢者の自己決定のための項目をまとめた用紙を作成する。
- ・ モデル(介護支援専門員)は、用紙を持ちかえり家族と老後の望む生き方を話し合ってもらう。
- ・ モデル以外のメンバーも、現時点での自分の人生史、老後への想いを書き出した。

・ 地域の高齢者に、この取り組みを紹介し感想を得た(併設グループホーム運営推進会議等)。

#### <活動の成果と評価>

1. モデルによる情報収集により、老後の自己決定に関わる聞き取り項目が抽出できた。「私のメッセージシート」用紙を作成した。これは、常に修正・加筆すべきものであることが分かった。  
※項目の例：「私の生き方」「こだわり」「老後の希望・死生観など」「その時どうする(希望する病院・介護・延命治療・臓器提供・遺言・最期にしてほしいこと・葬儀のこと)」(抜粋)
2. 介護支援専門員自身が老後の希望、死生観を認識した。また、老いや死について聞かれる利用者の気持ちを理解することにより、専門職としての態度やコミュニケーションを見つめなおせた。
3. スタッフ間で自己決定の重要性を話し合い、自分のケアプランを検討する試みは、介護支援専門員の資質向上(訓練・教育)のチャンスとなる。
4. 「私のメッセージシート」を現場で活用することにより、本人と家族が対話をする機会と、老後の暮らしへの想いの共有がめざせると考えた。

#### <今後の課題>

1. 介護支援専門員の教育・訓練として、モデル事例検討を続け、さらなる資質の向上をめざす。
2. 「私のメッセージシート」の改善を続け、実際に活用し、高齢者の自己決定支援に生かす。
3. 高齢者の自己決定を支える情報共有の形を検討する。関係医療・介護スタッフとの連携にむける。
4. 老いや死を見つめることで、人生のゴールのプランがイメージでき、いい人生だったと満足できる終わりを迎えられる。おしつけではなく、倫理的配慮のもと、地域の方への啓発活動をどのように行っていくかの検討をする。

#### <参考資料など>

箕岡真子：認知症終末期における事前指示書(本人の願望)の重要性と今後の展望、認知症ケア事例ジャーナル第3巻第1号2010.6 他